

# How to Use L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> Class File for MIRU2011

## – Guide and Template –

Hanako DENSHI<sup>†</sup>, Taro JOHO<sup>††</sup>, and Jiro TSHUSIN<sup>††</sup>

<sup>†</sup> Faculty of Engineering, First University Yamada 1-2-3, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan

<sup>††</sup> R&D Division, Osaka Corporation Kawada 4-5-6, Suita-shi, 565-0456 Japan

E-mail: [†hanako@denshi.ac.jp](mailto:†hanako@denshi.ac.jp), [††{taro,jiro}@jouhou.co.jp](mailto:††{taro,jiro}@jouhou.co.jp)

**Abstract** This document describes how to use the class file, `miru2011e.cls`, designed for MIRU2011. The design is based on ASCII Japanese pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub>.

**Key words** pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> class file, typesetting

## 1. Introduction

This document describes how to use the class file, `miru2011e.cls`, designed for MIRU2011. The design is based on ASCII Japanese pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub>.

## 2. Template and How to Typeset a Manuscript

使用言語は、日本語または英語です。以下、英文用の説明です。原稿の 1 ページ目上部には、一段組みでタイトル部を記述して下さい。タイトル部には、タイトル、発表者氏名、勤務先、Email、あらまし (100 語程度)、キーワード (6 個程度) を記述してください。

1 ページ目の全てをタイトル部にする必要はありません。本文は、タイトル部に続けてそのまま 2 段組みでお書き下さい。

## 3. ページ数

最大ページ数は、投稿するカテゴリ等によって異なります。詳細は、MIRU2011 Web ページを御覧下さい。

## 4. 著者に関する情報

査読はダブルブラインドで行います。査読付論文の投稿時には、論文中に著者を特定できる情報を入れないように注意して下さい。

- 1 ページ目の発表者氏名等は空欄にしておいてください。
- 謝辞は記載しないで下さい。
- 著者自身の既発表論文についても、「我々は」という引用をせず、第三者の立場で引用するようにして下さい。

## References

- [1] (雑誌の場合) 著者名, “標題,” 雑誌名, 巻, 号, pp. を

付けて始め—終りのページ, 月 (英語) 年.

- [2] (雑誌例 1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論 (B), vol. J62-B, no. 1, pp. 20–27, Jan. 1979.
- [3] (雑誌例 2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, diffusion of impurities during epitaxy, Proc. IEEE, vol. 52, no. 3, pp. 284–290, March 1964.
- [4] (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [5] (著書, 編書例 1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21–41, (社) 電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [6] (著書, 編書例 2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- [7] (著書の一部を引用する場合) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号または pp. を付けて始め—終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [8] (著書の一部引用例 1) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21–41, (社) 電子情報通信学会, 1989.
- [9] (著書の一部引用例 2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp. 381–390, Springer-Verlag, Berlin.
- [10] (国際会議の場合) 著者名, “表題,” 会議名, no. を付けて論文番号, pp. を付けて始め—終りのページ, 都市名, 国名, 月 (英語) 年.
- [11] (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no. MoF4.6, pp. 3–13, Amsterdam, The Netherlands, Sept. 1990.
- [12] (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 分冊または号, no. を付けて論文番号, pp. を付けて始め—終りのページ, 月 (英語) 年.
- [13] (国内大会, 研究会論文集例) 川上三郎, 川口四郎, “紫外域半導体レーザ,” 1995 信学全大, 分冊 2, no. SB2-1, pp. 20–21, Sept. 1995.